

カルピス最高

2023・6・23 校長 重枝 一郎

私がクラス担任をしているとき、クラス経営で注意を払っていたことは、一部の元気者の生徒でクラスの雰囲気楽しくなっていると錯覚しないことでした。本当にみんなが楽しんでいるのかは、クラスをよく見ればわかります。意外と元気者がいなくても癒し系の生徒が多い時の方がみんな楽しんでいるように思えたりもしました。とはいえ、私のクラスにはいろんな意味で元気者が集められていました。その中でも過剰なくらいの明るさを周囲に見せる生徒がいました。

その生徒は実は様々な問題を抱えていました。つまり、その明るさはまやかして、カラ元気のようなものであったのです。なぜ必死にそんな姿を見せようとしているのか、それは「人に弱みなんか見せられない」という心理が働いていたからでした。精神医学ではこれを「マニック・ディフェンス（躁的防衛・そうてきぼうえい）」といい、変にテンションを上げることで、自分が落ち込むのを防いでいるということです。本当は不安なのです。とにかく他者からどう思われているのかをとても気にしているのです。このような生徒と関わる中で、私は「困らせる生徒は、困っている」というフレーズを発信するようになりました。

このような人の特徴として、「易怒性（いどせい）」があります。テンションが上がっているせいで自分の思い通りにいかないと些細なことで怒り出すというものです。明るいうちは暗いよりいいかもしれませんが、「易怒性」が出たときには周りの雰囲気を悪くしてしまいます。

私のクラスの生徒も一日一回は不機嫌になり、誰かを攻撃していました。私は、この気分の波に周りのがのまれないように2つのことを日頃から語っていました。

一つ目は、「人の精神には常に波がある。いい時も悪い時もあるのが当たり前。悪い時に負の自分も受け入れることが一番大事になる。だから“いい失敗をしよう”と言っている。うまくいなくても“経験”を手に入れることはできるので、八つ当たりのような態度は絶対しないこと」と語っていました。つまり「失敗していい」という逃げ道はあっていいのです。

二つ目は、他人を振り回す攻撃者は、往々にして他人から尽くされるのは当たり前といった自分のことしか考えない場合が多いのです。だから、「ギブ&テイク」の意識を育てることが大事だと思っていました。学校では、特に「ギブ&テイク」を学ぶ機会はたくさんあります。いじめられそうになった時に友だちに助けてもらったので、今度はその友達が困ったときに助けてあげたり、当番を代わってもらったので、今度は自分が当番を代わってあげたり等。私は「ギブ&テイク」を知らない人は、どんな社会人になるのだろうと心配する気持ちをもっていました。また、「ギブ&テイク」を学ぶ機会も減っているとも感じていました。だから私は、助け合いの「ギブ&テイク」を奨励していました。

笑い話になると思いますが、私が教師になって初めて学年集会で話した時、とても緊張したのを思い出します。話す内容も定まらず、生徒の実態を見て、集団がそれこそ元気者と息をひそめている者に分断している気がしたので、「俺はカルピスが好きだ。でも薄すぎても濃すぎてもまずいやろ。ちょうどいい感じがうまい！君たちもちょうどよく混ぜり合え」と思い出してもペラペラのスピーチでも恥ずかしいのですが、意外と生徒には届いていました。その後、ベテランの先生が「俺はコーラが好きだ。スカッとさわやかになれ」と話しました。ナイスフォローでした。

先日の朝の礼拝での生活委員会からの通学マナーの話は、とてもよかった。
「君たちを信頼している！」「自分よし 相手よし みんなよし」だな。